Panasonic

火災通報装置

(応答確認ランプ付)(音声ロムパック別)
(BGF1197)

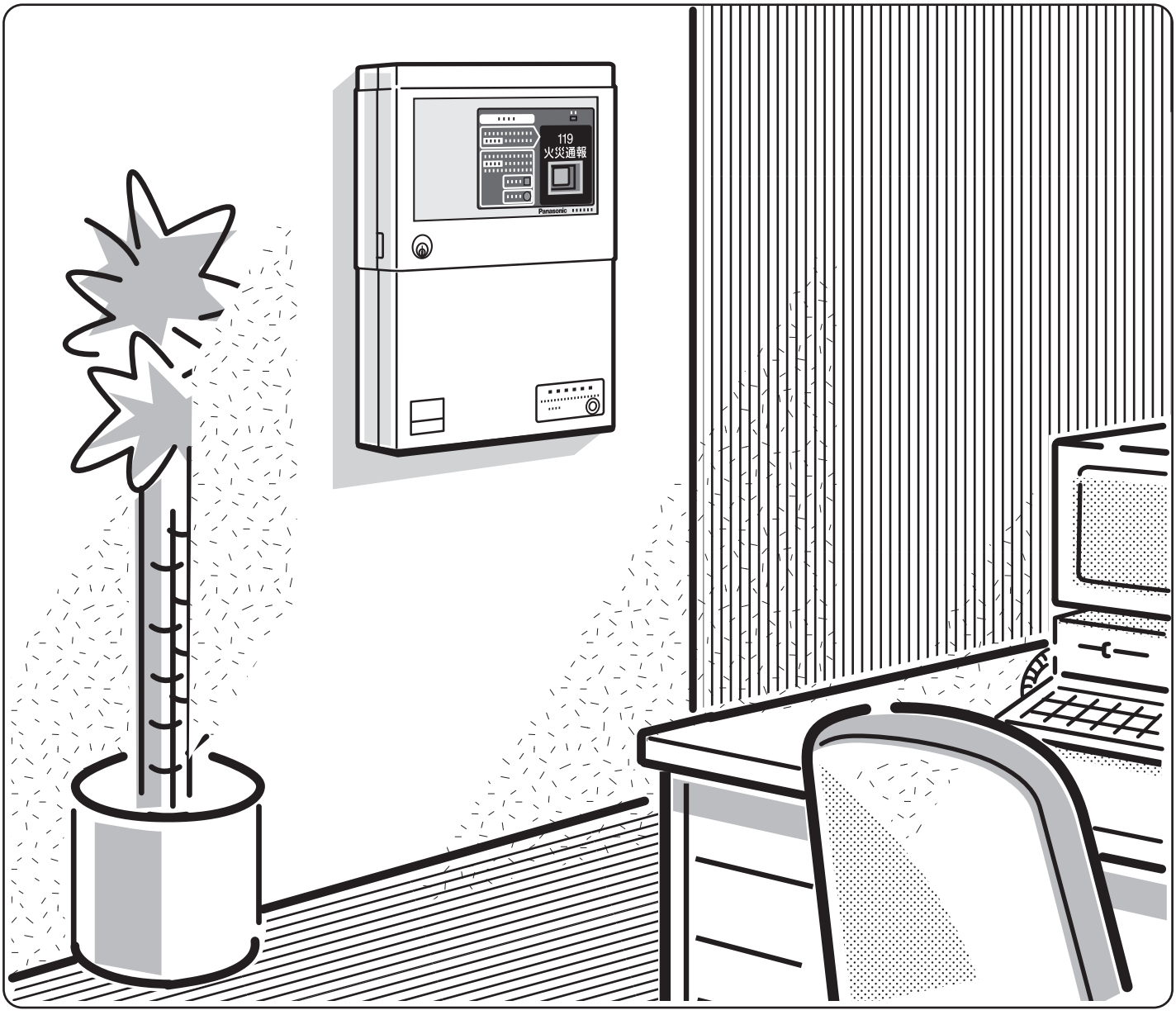
火災通報専用電話機

(BGT1192)

施工説明書

保管用　屋内専用

●正しい施工をしていただくために必ずお読みください。



施工される前に

●施工するには、電気工事士・消防設備士(甲種第4類)・電話工事担任者の資格が必要です。
●施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書などをお渡しください。
●万一、施工説明書にしたがわず施工された場合は責任を負い兼ねることがあります。
●火災などによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の記号で説明しています。(次は図記号の例です。)

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。

⚠警告

分解禁止	**機器を分解したり、修理・改造はしない。** 感電・故障の原因となります。
必ず守る	**電源(AC100V)を切り、予備電源用の電池を取りはずした状態で施工する。** 活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。
	施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるように強固に取り付ける。 安易な取り付けは脱落によるケガの原因となります。
	AC100V専用です。接続前に入力電圧の確認をする。 AC100V以外の電圧では発火・発熱の原因となります。
	AC100V用電源端子は確実に締め付ける。 締め付けが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。
	速結端子は確実に差し込む。 差し込みが不十分な場合、不動作の原因となります。
	ヒューズ交換は電源(AC100V)および電源スイッチを切った状態で行う。 電源を切らないと、感電の原因となります。
	電池は必ず接続する。 電池を接続していないと停電時に機能しません。
	AC100V端子の電源端子カバーは工事終了後、必ず取り付ける。 感電の原因となります。
	リチウム電池を取りはずした場合は、小さなお子様がリチウム電池を誤って飲まないようにする。
	リチウム電池はお子様の手の届かないところへ置く。 万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠警告

禁止	**水や雨のかかる場所(屋外など)および湿気の多い場所(給湯室など)には設置しない。** 感電・故障の原因となります。
	小勢力端子にAC100V用電源線を接続しない。 発火・発煙の原因となります。
	鉛蓄電池は火に投入したり、ショートさせない。 爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。
	鉛蓄電池は絶対に分解しない。 鉛蓄電池は内部に劇物の希硫酸を保持しています。鉛蓄電池から漏液した場合は、皮膚や衣服に付着させないでください。万一付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。とくに、液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。希硫酸が目に入ると失明、皮膚に付くとやけどの原因となるおそれがあります。
ぬれ手禁止	**ぬれた手で機器をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。** 感電・故障の原因となります。

⚠注意

アース線接続	**アースの接続は確実に行う。** 使用時や漏電のときに感電するおそれがあります。
必ず守る	**リチウム電池は極性に注意して表示通りに入れる。** 極性を間違えると、リチウム電池の破裂や液もれの原因となります。
	鉛蓄電池は定期的(3年)に交換する。 停電補償ができなくなり、事故の原因となります。

もくじ

1.付属品 ―― 5
2.施工上のご注意 ―― 5
3.機能設定 ―― 6
4.取付方法 ―― 7～8
- ●火災通報装置の取付方法 …… 7
- ●火災通報装置の音声ロムパック（BGF93）（別売）の取付方法 …… 8
- ●火災通報専用電話機の取付方法 …… 8

5.全体の接続方法 ―― 9
6.配線可能距離（片道） ―― 10
7.接続個数 ―― 10
8.火災通報専用電話機を3台以上（5台まで）設置する場合 ―― 11
9.火災通報専用電話機を6台以上（16台まで）設置する場合 ―― 12
10.確認ランプ・通報ベルの出力動作について ―― 13
- ●119番へ通報した場合 …… 13
- ●一般通報先へ通報した場合 …… 13

11.登録内容一覧表 ―― 14
12.登録設定について ―― 16～19
- ●登録方法について …… 16～17
- ●消去方法について …… 18
- ●登録した内容を確認するには …… 19

13.通報内容の録音手続きの方法について ―― 20
14.施工後の確認方法 ―― 21
15.故障時連絡先ラベルについて ―― 21

1.付属品

- ●施工説明書（本紙）……1冊
- ●取扱説明書……1冊
- ●通報内容登録用紙……1枚
- ●保守契約用書類など……1セット
- ●鉛蓄電池（BGF9902）……1コ
- ●専用キー……2コ
- ●ヒューズ（0.5A）……1コ
- ●ヒューズ（1A）……2コ
- ●故障時連絡先ラベル……1枚
- ●モジュラコード（6P・200mm）……1本
- ●露出タイプローゼット ……1コ
- ●火災通報装置用火災通報ボタン保護カバー ……2コ
- ●火災通報専用電話機用火災通報ボタン保護カバー ……2コ
- ●ダイオード…… 2コ
- ●リチウム電池（CR2032）……1コ
- ●火災通報装置設置届出書 ……1枚
- ●設置届出書の記入例・記入のしかた ……1枚

注 音声ロムパック（BGF93）（別売）は、セットで購入していただき音声録音後、別途お届けします。
通報内容の録音手続きの方法について（20ページ）を参考にご依頼ください。

2.施工上のご注意

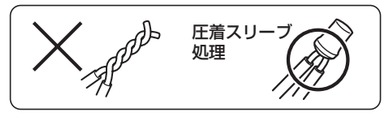
- ●この商品は 屋内専用 です。屋外・屋側には設置しないでください。
- ●接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

■次のような場所には設置しないでください。（誤動作や故障の原因となります。）

- ●直射日光の当たる場所
- ●水滴、蒸気、ほこりなどがかかる場所
- ●周囲に操作上支障となる障害物のある場所
- ●衝撃、振動などの影響を受ける場所
- ●常に人がいなくてようすを確かめられない場所
- ●薬品などのガスが発生する場所
- ●強電界やノイズの発生する場所

施工時のご注意

- ●専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
- ●構内交換機の内側には接続できません。
- ●公衆電話回線などのリバース機能のない回線には接続できません。
- ●デジタル回線（ISDNなど）と接続する場合は、必ずターミナルアダプタTA / T（サクサ（株）製）をご使用ください。
- ●自動火災報知設備の受信機と連動させる場合は、必ず連動停止スイッチ箱（BGT9010KH）と接続してください。
- ●特定小規模施設用 光電式スポット型感知器2種（試験機能付）（無線式・連動型警報機能付・電池式・移報接点付）（子器）と連動させる場合は、必ず連動停止スイッチ箱（DC12V）（BGT9011H）と接続してください。
- ●構内交換機・ファクシミリおよび留守番電話機を接続した場合は、機能設定（6ページ）を参考に設定してください。
  この場合、火災通報専用電話機（BGT1192）が必要となります。
- ●現在、使用している一般電話機を専用電話機として使用する場合は、機能設定（6ページ）を参考に設定してください。
- ●工事・施工時のゴミなどは機器の中に残さないでください。
  ショートや故障の原因となります。
- ●電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。
  電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化接触不良をおこし誤報の原因となります。



- ●接続方法に示す機器以外の機器を接続する場合には、当社へご相談ください。
  不適切な接続は誤作動・故障の原因となります。
- ●アースは必ず接続してください。（D種（第3種）接地相当以上（100Ω以下）としてください。）
- ●露出タイプローゼットに接続する配線（モジュラコードの配線は除く。）と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。

3.機能設定

音声ロムパック（BGF93）（別売）

固定フレーズ音量調整ボリューム RV4
●右にまわすと音量が大きくなります。

不定フレーズ音量調整ボリューム RV3
●右にまわすと音量が大きくなります。

専用電話機モニター音量調整ボリューム RV1
●右にまわすと音量が大きくなります。

このスイッチは押さないでください。
●押すと通報動作を中断します。

逆信時の一般電話機ベル鳴動用ジャンパー
●119番からの逆信時に、回線用電話機のベル鳴動を設定します。（出荷時は「鳴動させる」側に設定）

●鳴動させる場合	●鳴動させない場合
出荷時 JP2 JP3	JP2 JP3

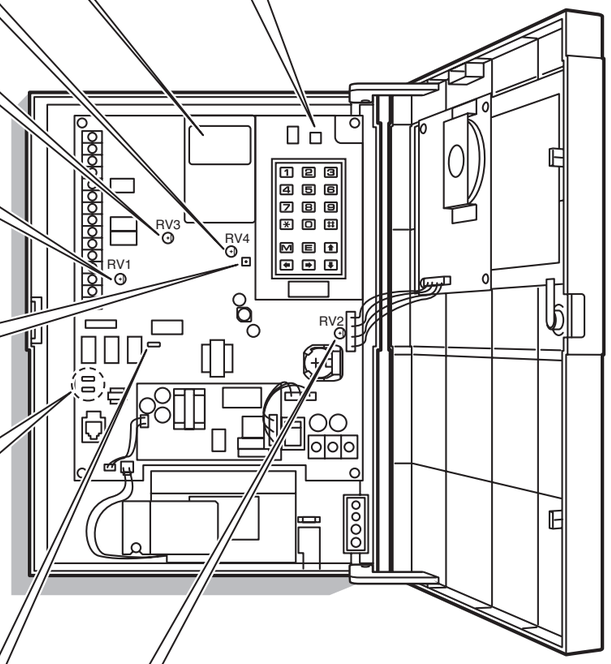
一般電話機を専用電話機と「する／しない」切替ジャンパー
●現在、使用中の一般電話機を火災通報専用電話機のかわりに使用するかしないかの設定をします。（出荷時は「専用電話機とする」側に設定）

●専用電話機とする場合	●専用電話機としない場合
出荷時 JP5	JP5

本体モニター音量調整ボリューム RV2
●右にまわすと音量が大きくなります。

設定スイッチ
●動作確認時、119番通報をさせない場合は、設定スイッチの1を2側（ON）にしてください。
（出荷時は設定スイッチの1は全側（OFF）で119番通報をします。）
設定スイッチの2はさわらないでください。

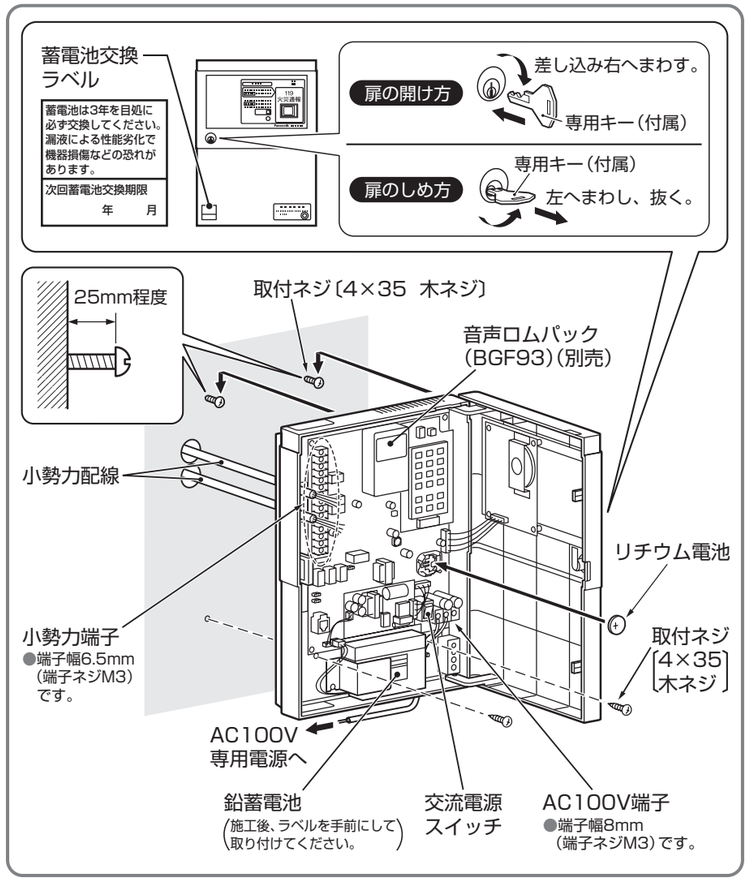
SW1
2 1 2 TEST
全 OFF —



設定内容	逆信時の一般電話機ベル鳴動用ジャンパー	一般電話機を専用電話機と「する／しない」切替ジャンパー
一般電話機を専用電話機として使用する場合	JP2 JP3	JP5
構内交換機・ファクシミリおよび留守番電話機を接続する場合	JP2 JP3	JP5

4.取付方法

火災通報装置の取付方法



1 付属の専用キーで本体の扉を開ける。

2 本体を取り付ける。
※使用できるネジ…4×35木ネジ
●上部の取付ネジを25mm程度残して、本体を引っ掛けた後、取付ネジを締め付ける。
注 落下しないように補強板などを取り付けてください。

3 配線をする。
※「接続方法」参照（9～12ページ）
注 ●AC100V配線を接続する場合、保護カバーをはずして接続してください。
●結線後、保護カバーを必ず元に戻してください。

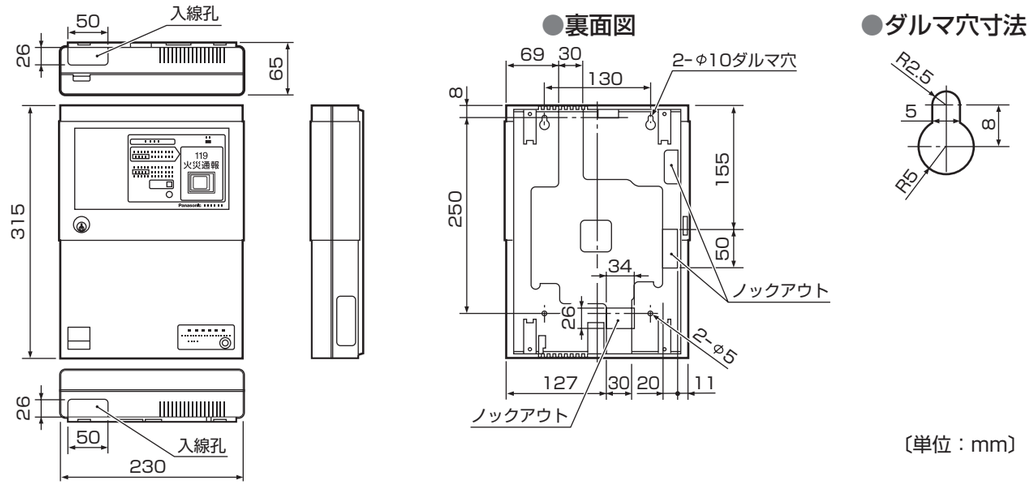
4 交流電源スイッチを「ON」側にする。

5 電池を取り付ける。
（取扱説明書18ページ参照）

6 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。

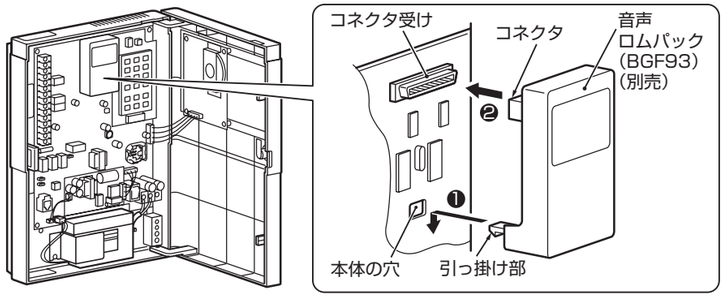
7 蓄電池交換ラベルに鉛蓄電池を交換する期限を記入してください。
●鉛蓄電池を取り付けた日から起算して3年後の日を記入してください。

取付寸法図



4.取付方法

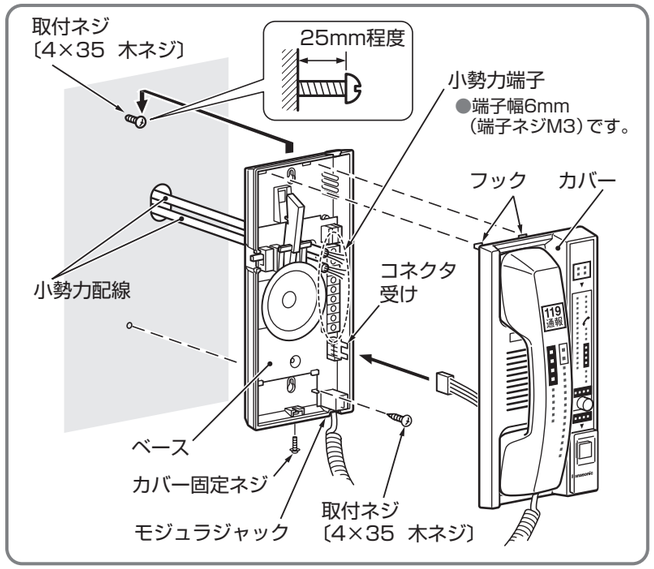
火災通報装置の音声ロムパック（BGF93）（別売）の取付方法



❶音声ロムパック（BGF93）（別売）の引っ掛け部を本体の穴に入れ、下にさげる。

❷音声ロムパック（BGF93）（別売）のコネクタを本体のコネクタ受けに差し込む。

火災通報専用電話機の取付方法



1 カバー固定ネジをはずし、カバーを開ける。

2 コネクタリード線をはずし、カバーとベースを分離する。

3 ベースを取り付ける。

※使用できるネジ…4×35木ネジ

●上部の取付ネジを25mm程度残して、ベースを引っ掛けた後、取付ネジを締め付ける。

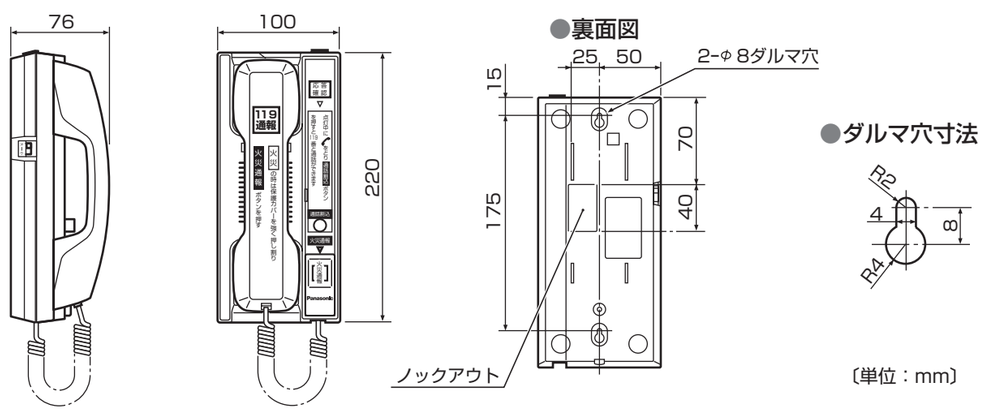
4 配線をする。

※「接続方法」参照（9～12ページ）

5 カバーのコネクタリード線をベースのコネクタ受けに差し込む。

6 カバー上部のフックをベースに引っ掛け、カバーをカバー固定ネジで固定する。

取付寸法図



5.全体の接続方法

注 ●デジタル回線（ISDNなど）と接続する場合は、必ずターミナルアダプタTA / T（サクサ（株）製）をご使用ください。
●デジタル回線（ISDNなど）と接続する場合（詳細については、ターミナルアダプタTA/ Tに付属の取扱説明書を参照してください。）

ターミナルアダプタTA/Tの電源ユニットを使用しない場合	●火災通報装置のモジュラコードをターミナルアダプタTA / Tの通報装置（電話1）コネクタに接続する。 ●火災通報装置のBELL端子、LAMP端子、GND端子、＋12V端子をターミナルアダプタTA / Tの電源/制御コネクタに接続する。
ターミナルアダプタTA/Tの電源ユニットを使用する場合	●火災通報装置のモジュラコードをターミナルアダプタTA / Tの通報装置（電話1）コネクタに接続する。 ●火災通報装置のBELL端子、LAMP端子、GND端子をターミナルアダプタTA / Tの電源/制御コネクタに接続する。

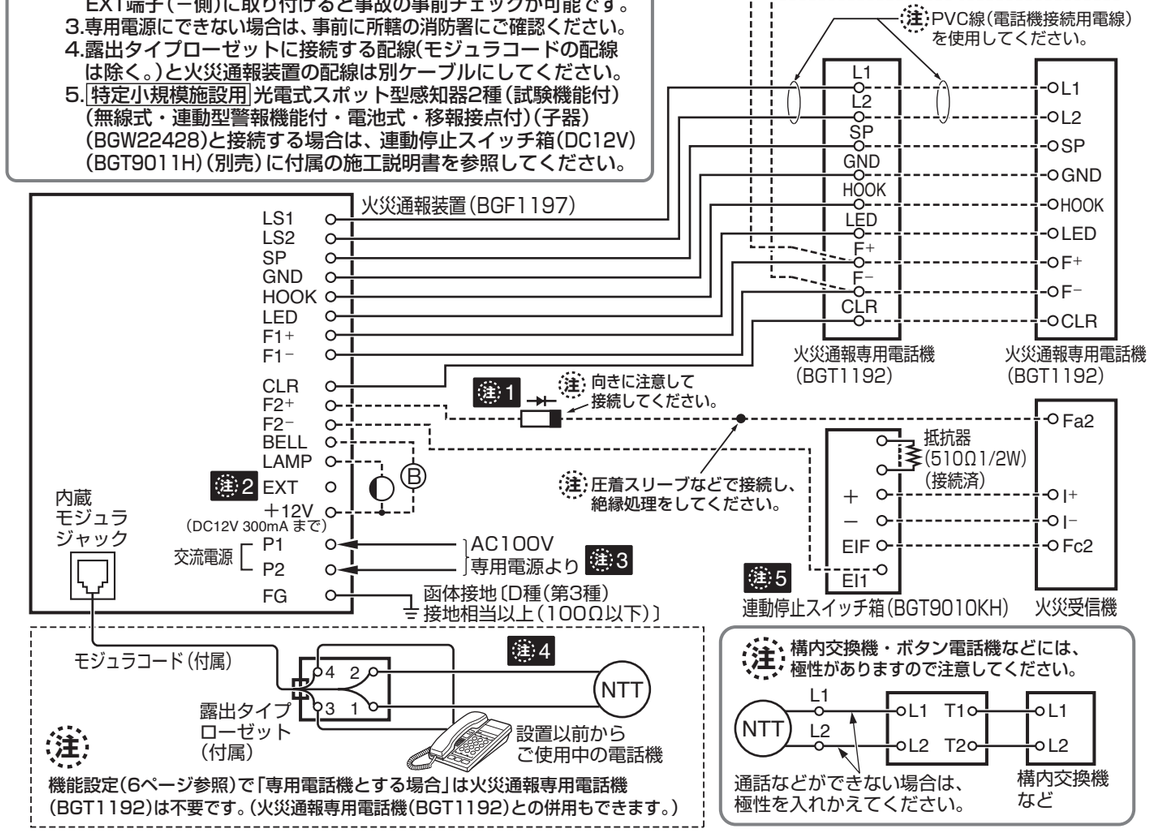
●接続後の試験は、iANTS-102試験装置（安全センター認定：通試-06号（サクサ（株）製）を使用ください。
（詳細については、iANTS-102試験装置に付属の取扱説明書を参照してください。）

※ターミナルアダプタTA / T、iANTS-102試験装置の詳細については、下記にお問い合わせください。
サクサ（株）お客様相談室　ナビダイヤル（全国共通番号）0570-001-393

⚠警告	必ず守る		禁止	
		AC100V用電源端子は確実に締め付ける。 締め付けが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。		**小勢力端子にAC100V用電源線を接続しない。** 発火・発煙の原因となります。
		速結端子は確実に差し込む。 差し込みが不十分な場合、不動作の原因となります。		
		電源（AC100V）を切り、予備電源用の電池を取りはずした状態で施工する。 活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。		

●下図のように正しく配線してください。動作しない場合は、電源を切って再度配線をご確認ください。
●接続する商品は別途お買い求めください。

注 1.火災通報ボタンを増設する場合や火災受信機と接続する場合は、付属のダイオード（1A・600V）の極性に注意して接続してください。
2.火災通報ボタン（F1）の入力線の短絡や自火報の入力線が短絡した場合、電子ブザー（最大0.5A）などを＋12V端子（＋側）、EXT端子（－側）に取り付けると事故の事前チェックが可能です。
3.専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
4.露出タイプローゼットに接続する配線（モジュラコードの配線は除く。）と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。
5.[特定小規模施設用]光電式スポット型感知器2種（試験機能付）（無線式・連動型警報機能付・電池式・移報接点付）（子器）（BGW22428）と接続する場合は、連動停止スイッチ箱（DC12V）（BGT9011H）（別売）に付属の施工説明書を参照してください。



6.配線可能距離(片道)

■火災通報専用電話機(BGT1192)1台の場合

項目 ＼ 使用電線	0.5mm² または φ0.65	0.75mm² または φ0.9
火災通報装置 ～火災通報専用電話機	最遠長 150m	最遠長 200m

■火災通報専用電話機(BGT1192)2台の場合

項目 ＼ 使用電線	0.5mm² または φ0.65	0.75mm² または φ0.9
火災通報装置 ～火災通報専用電話機	最遠長 100m	最遠長 150m

■確認ランプ・通報ベルの場合

項目 ＼ 使用電線	0.5mm² または φ0.65	0.75mm² または φ0.9
火災通報装置 ～確認ランプまたは通報ベル	最遠長 40m	最遠長 80m

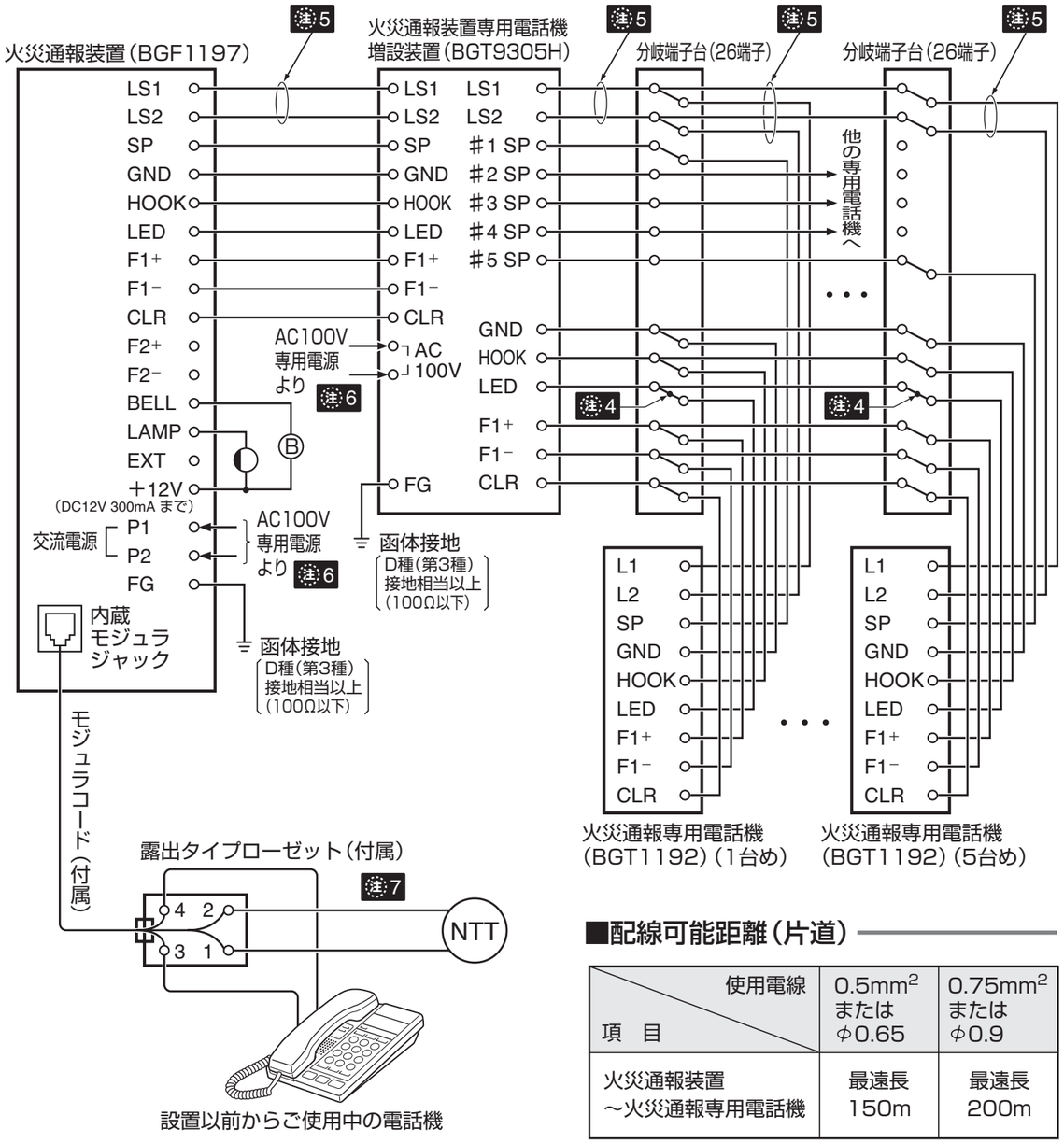
7.接続個数

●配線方法は9・11・12ページを参照ください。

接続機器	品　番	接　続　個　数
火災通報専用電話機	BGT1192	2台まで (注) 1. 火災通報装置専用電話機増設装置(BGT9305H)を接続すると3台以上5台まで接続可能です。 2. 電話機増設装置(Uオーダー品)、増設電源装置(Uオーダー品)を接続すると5台以上8台まで接続可能です。 3. 電話機増設装置(Uオーダー品)、増設電源装置(Uオーダー品)を2台並列接続すると16台まで接続可能です。
確認ランプ	BGT9001K	合計300mA以下になるように接続してください。
通報ベル	EA4643など (DC12V 40mA)	

8.火災通報専用電話機を3台以上(5台まで)設置する場合

(注)
1. 火災通報装置専用電話機増設装置(BGT9305H)が必要です。
2. 接続する電話機は、必ず小さい番号から順に使用してください。
3. 分岐端子台は26P以上をご使用ください。
4. 分岐端子台のLED端子には、火災通報装置専用電話機増設装置(BGT9305H)に付属の抵抗(560Ω・1/2W)を接続してください。
5. PVC線(電話機接続用電線)を使用してください。
6. 専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
7. 露出タイプローゼットに接続する配線(モジュラコードの配線は除く。)と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。



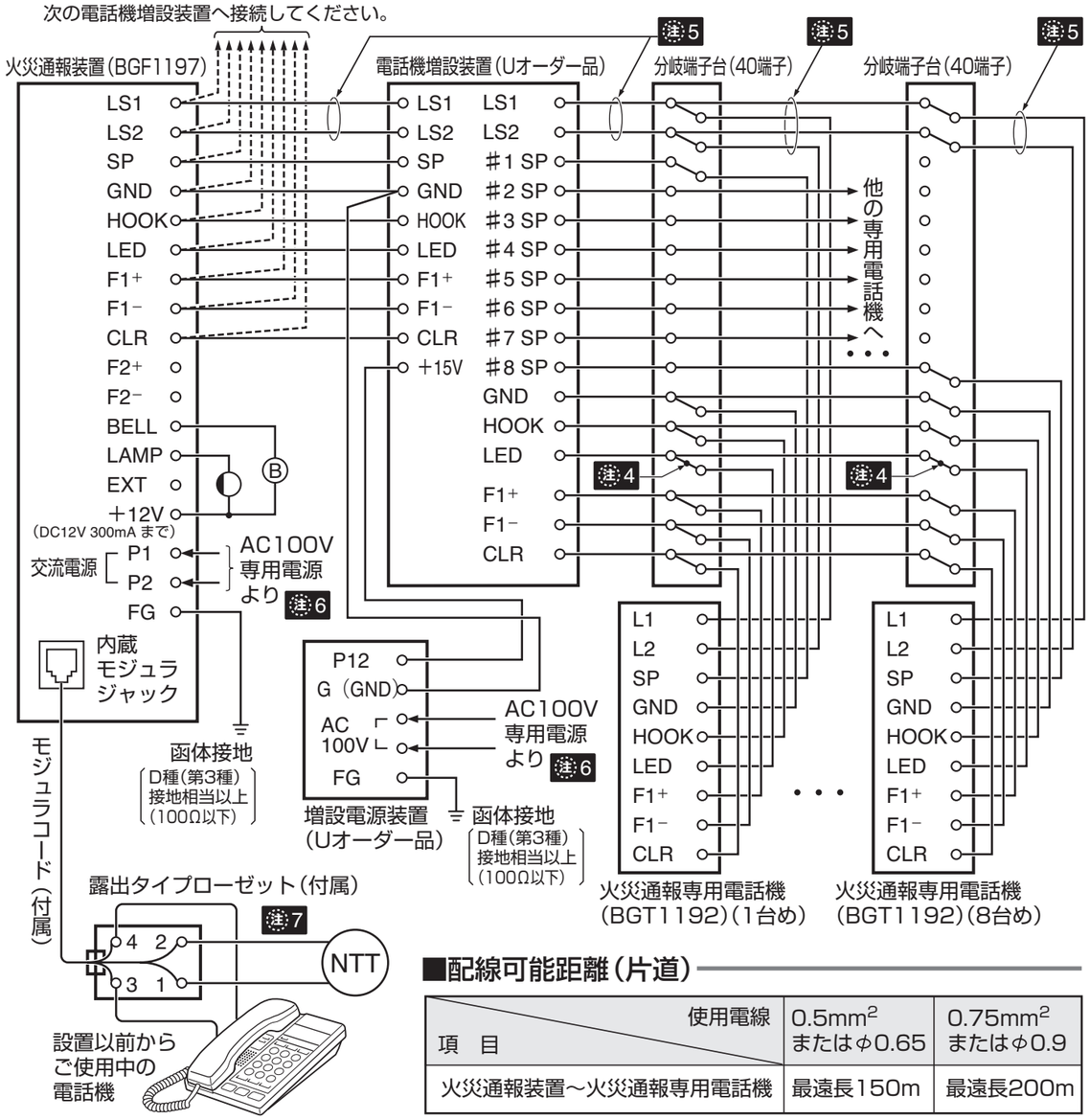
■配線可能距離(片道)

項目 ＼ 使用電線	0.5mm² または φ0.65	0.75mm² または φ0.9
火災通報装置 ～火災通報専用電話機	最遠長 150m	最遠長 200m

9.火災通報専用電話機を6台以上(16台まで)設置する場合

注
1. 電話機増設装置(Uオーダー品)と増設電源装置(Uオーダー品)が必要です。
   〔火災通報専用電話機(BGT1192)を9台以上16台まで接続する場合は、電話機増設装置(Uオーダー品)と増設電源装置(Uオーダー品)が各2台必要です。〕
2. 接続する火災通報専用電話機の数が8台未満のときは、必ず小さい番号から順に使用してください。
3. 分岐端子台は40Pをご使用ください。
4. 分岐端子台のLED端子には、電話機増設装置(Uオーダー品)に付属の抵抗(560Ω・1／2W)を接続してください。
5. PVC線(電話機接続用電線)を使用してください。
6. 専用電源にできない場合は、事前に所轄の消防署にご確認ください。
7. 露出タイプローゼットに接続する配線(モジュラコードの配線は除く。)と火災通報装置の配線は別ケーブルにしてください。

●火災通報専用電話機を9台以上16台まで接続する場合は
次の電話機増設装置へ接続してください。



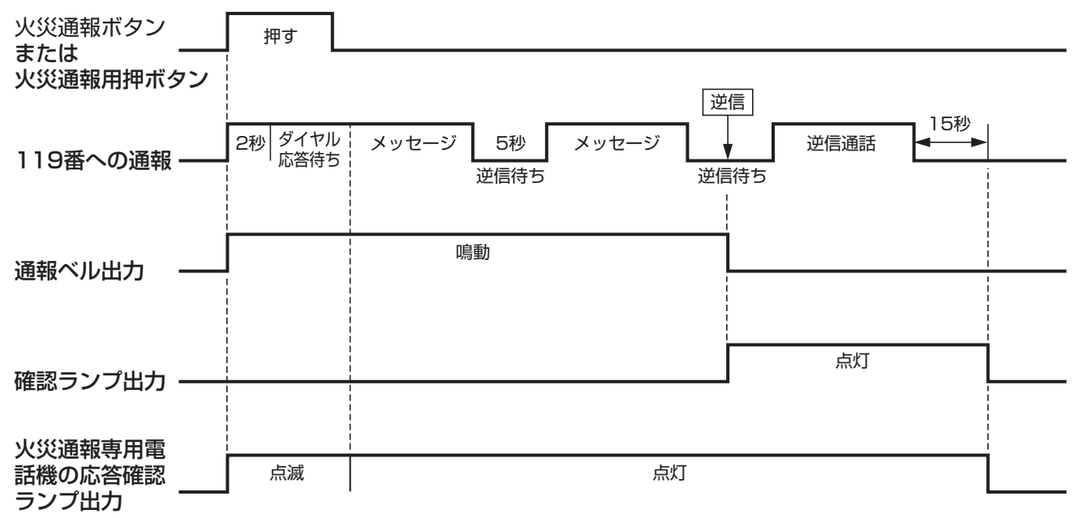
■配線可能距離(片道)

項目 ＼ 使用電線	0.5mm² または φ0.65	0.75mm² または φ0.9
火災通報装置～火災通報専用電話機	最遠長150m	最遠長200m

10.確認ランプ・通報ベルの出力動作について

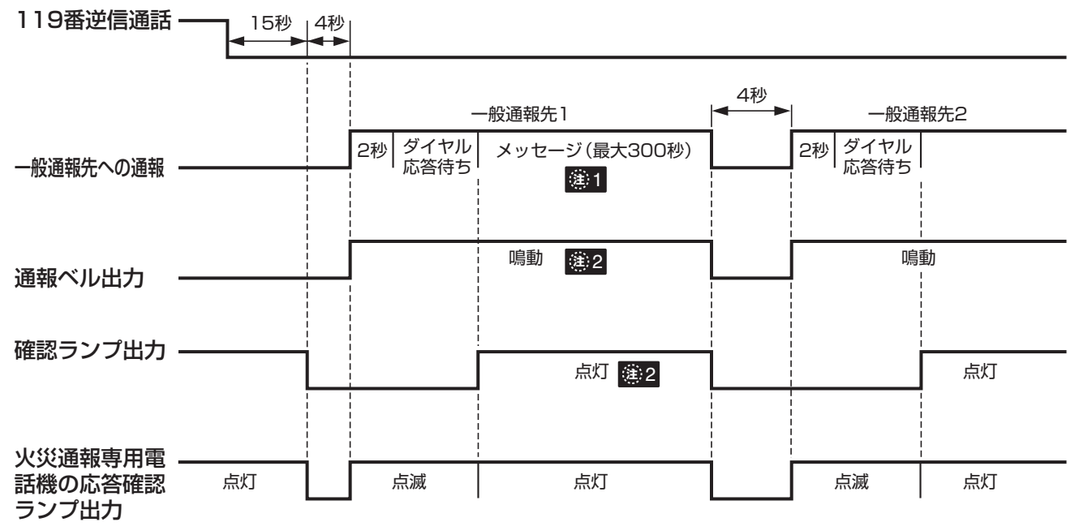
119番へ通報した場合

※119番が通話中の場合は、リダイヤル(最大98回)をくり返します。



一般通報先へ通報した場合

※一般通報先が通話中または応答しない場合は、約50秒後に次の一般通報先へ動作が移ります。



注
1. 登録設定(14ページ)により一般通報メッセージの送出時間を300秒から60秒に変更することができます。
2. 登録設定(14ページ)により通報ベル・確認ランプの出力をなくすことができます。

11.登録内容一覧表

項目		設定内容	初期設定	テンキー操作				設定値記入欄
共通設定項目	使用電話回線の種別(DP/PB)	DP/10pps	●	3 1	登録時 #	1	登録時のみ #	
		DP/20pps				2		
		PB				3		
	0発信回線(セントレクス)の設定	0 発信なし	●	3 3		0		
		0 発信あり				1		
一般通報先に関わる設定項目	一般通報先の電話番号の設定	一般通報先の電話番号(最大16ヵ所)	—	0 1 … 1 6		□…□ 電話番号最大16桁		取扱説明書の裏表紙に記入してください。
	一般通報の打ち切り方法	一ヵ所応答時点で終了(応答エンド)		1 7		1		
		すべて応答するまで呼び出す(オールコール)	●			0		
	一般通報時の通報ベル、確認ランプ出力のありなし	あり	●	1 8		1		
		なし				0		
	一般通報時の応答判定	通報先が受話器を上げた時点	●	2 0		1		
		通報先が1メッセージ聞き終えた時点				0		
	一般通報メッセージの送出時間	300秒	●	3 5		0		
		60秒				1		
	一般通報時のモニター	モニターあり		3 8		1		
		モニターなし	●			0		
自動火災報知設備と連動する場合の設定項目	自火報メッセージ中に火災通報ボタン入力が入った場合のメッセージ切り替えタイミング	自火報メッセージ1回送出後切り替え	●	1 9	確認時 *	0		
		即時切り替え				1		
	F2端子の設定	自火報入力	●	3 4	消去時 # #	0		
		火災通報ボタン入力				1		
その他	通話割り込みタイミングの設定(119番のみ)	即時通話に切り替え	●	3 6		0		
		1メッセージ送出後通話に切り替え				1		
	119番通報時の応答までの取消機能	あり	●	3 9		0		
		なし				1		
	逆信メッセージ「逆信してください。」の削除設定	あり(削除しない。)	●	4 0		0		
		なし(削除する。)				1		
	119番通報時の応答検出感度設定 注1	音声検出感度を良くする(119通報時メッセージ送出されない場合)		2 6		0		
		標準	●			1		
		音声検出感度をにぶらせる(119通報時メッセージ送出が早すぎる場合)				2		
	回線切換ユニット回線種別設定	DP/10pps	●	3 2		1		
		DP/20pps				2		
		PB				3		
	不定メッセージ送出設定	音声ロムパック(BGF93)(別売)の表面シールに「AおよびB」と記載されている場合	●	3 7		0		
		音声ロムパック(BGF93)(別売)の表面シールに「C」と記載されている場合 注3				1		
	119番通報時のメッセージの自動送信時間設定(ダイヤル終了後から) 注2	5秒	●	2 7		0		
		10秒				1		

注 1. 119番からの声に反応しない場合、「音声検出感度を良くする」設定にしてください。
2. 119番側で通報メッセージが、途中から聞こえる場合、「10秒」の設定にしてください。
3. 「AおよびB」と記載されている場合、この設定を行うと不定メッセージを2回繰り返し送出します。

MEMO

12.登録設定について

登録方法について

1 付属の専用キーで扉を開ける。

注 必ずリチウム電池を本体に取り付けてください。(取扱説明書18ページ参照)

2 テンキーボタンの[M]を押す。
(登録／確認モード開始)

連続して行う場合

3 [0][1]～[4][0]のうち、登録したいコード番号をテンキーボタンで押す。

●登録内容一覧表(14ページ)参照のこと。

4 テンキーボタンの[#]を押す。

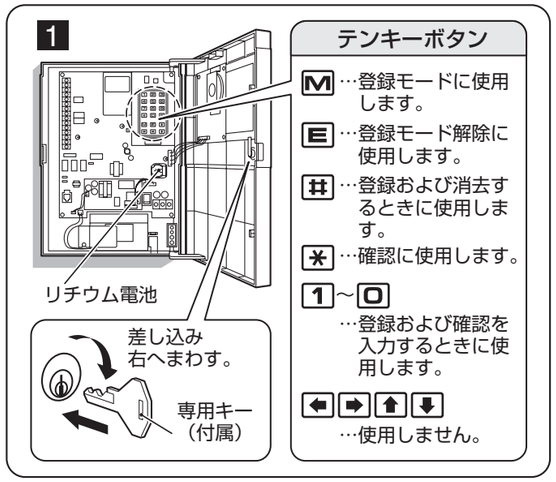
5 登録するコード番号の設定内容をテンキーボタンで押す。

●登録内容一覧表(14ページ)参照のこと。

6 テンキーボタンの[#]を押す。
(登録終了)

7 テンキーボタンの[E]を押す。
(登録／確認モード終了)

8 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。



【例】「第1通報先(電話番号123-4567)、第2通報先(01-234-5678)」
「1ヵ所応答時点で通報終了(応答エンド)」「一般通報時に通報ベル・確認ランプの出力なし」
「通報先が受話器を上げれば応答と判断」と登録する場合。

1 付属の専用キーで扉を開ける。

2 テンキーボタンの[M]を押す。
(登録／確認モードの開始)

3 テンキーボタン[0][1][#][1][2][3][4][5][6][7][#]を押す。

●第1通報先の電話番号の登録完了。

4 テンキーボタン[0][2][#][0][1][2][3][4][5][6][7][8][#]を押す。

●第2通報先の電話番号の登録完了。

5 テンキーボタン[1][7][#][1][#]を押す。

●「1ヵ所応答時点で通話終了」に登録完了。

注 登録しない場合は、すべての通報先が応答するまで呼び出します。

6 テンキーボタン[1][8][#][0][#]を押す。

●「一般通報時に、通報ベル・確認ランプの出力なし」に登録完了。

注 登録しない場合は、通報ベル・確認ランプの出力はします。

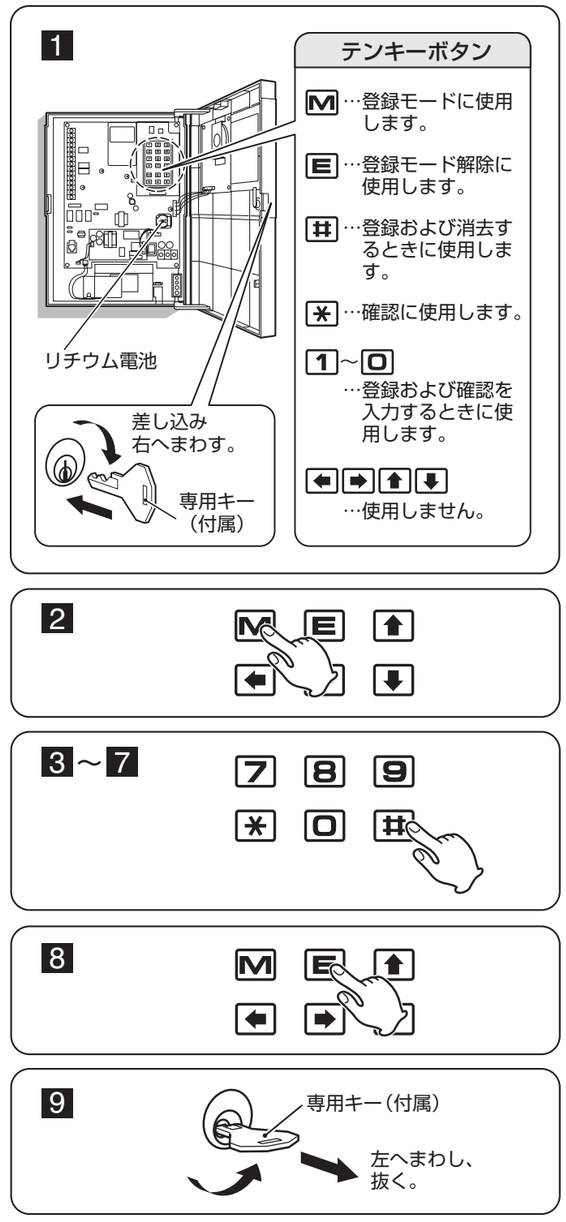
7 テンキーボタン[2][0][#][1][#]を押す。

●「通報先が受話器を上げれば応答と判断」に登録完了。

注 登録しない場合は、通報先がメッセージを開き終えないと応答とみなしません。

8 テンキーボタンの[E]を押す。
(登録／確認モードの終了)

9 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。

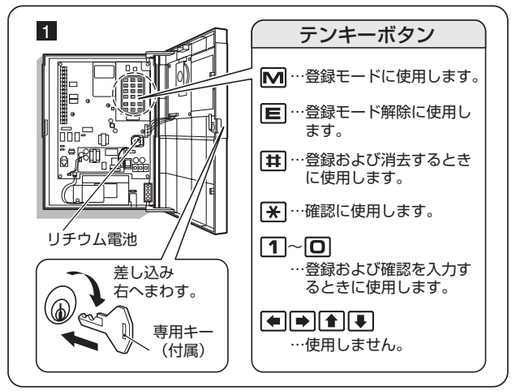


●登録内容、初期設定については、登録内容一覧表(14ページ)を参照してください。

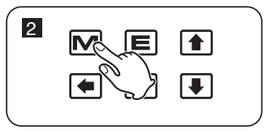
12.登録設定について

消去方法について

1 付属の専用キーで扉を開ける。



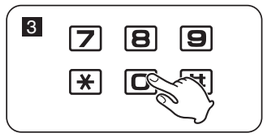
2 テンキーボタンの M を押す。



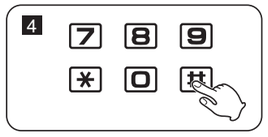
連続して行う場合

3 0 1～1 6 のうち、消去したいコード番号をテンキーボタンで押す。

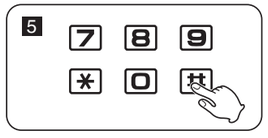
●登録内容一覧表（14ページ）参照のこと。



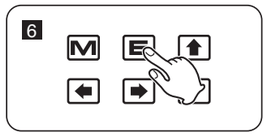
4 テンキーボタンの # を押す。



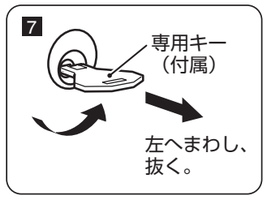
5 テンキーボタンの # を押す。
（消去終了）



6 テンキーボタンの E を押す。

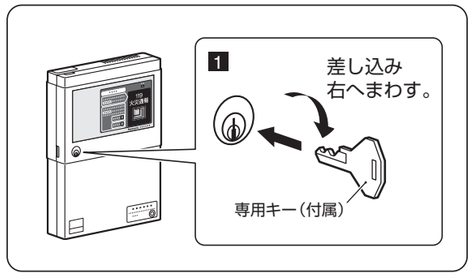


7 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。



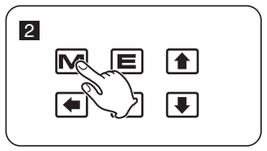
【例】一般通報先の5番目の電話番号を消去する場合

1 付属の専用キーで扉を開ける。

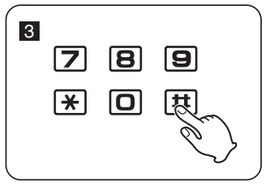


2 テンキーボタンの M を押す。

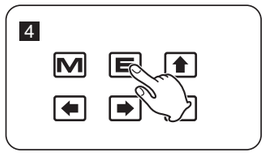
●登録内容一覧表（14ページ）参照のこと。



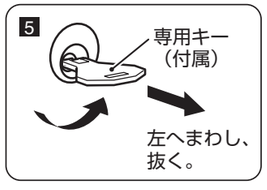
3 テンキーボタン 0 5 # # を押す。



4 テンキーボタンの E を押す。



5 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。



登録した内容を確認するには

1 付属の専用キーで扉を開ける。

2 テンキーボタンの M を押す。
（登録／確認モード開始）

連続して行う場合

3 0 1～4 0 のうち、確認したいコード番号をテンキーボタンで押す。

●登録内容一覧表（14ページ）参照のこと。

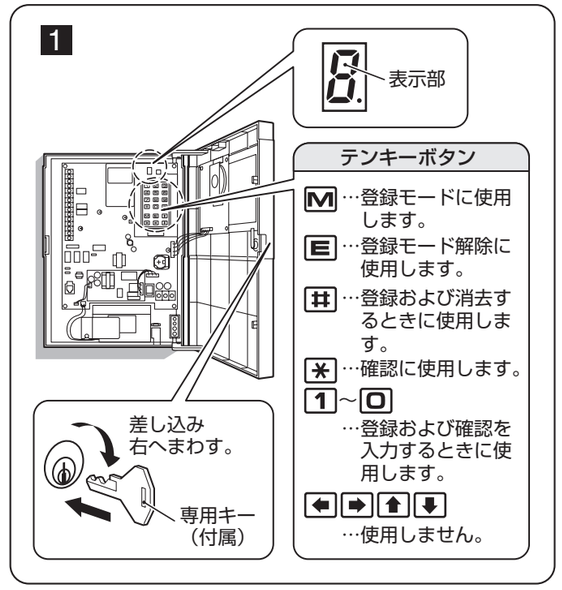
4 テンキーボタンの * を押す。

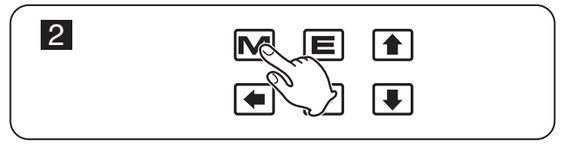
5 登録した内容を表示部に表示する。

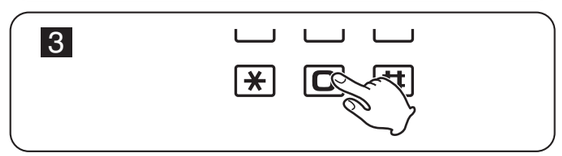
●登録内容一覧表（14ページ）参照のこと。

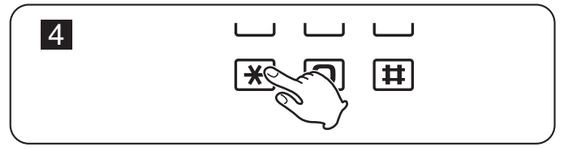
6 テンキーボタンの E を押す。
（登録／確認モード終了）

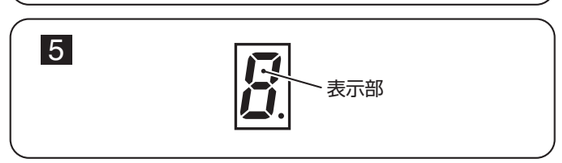
7 扉を閉め、付属の専用キーで閉める。

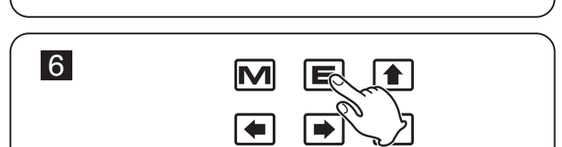












13.通報内容の録音手続きの方法について

●付属の通報内容登録用紙に必要事項を記入して、発注してください。

火災通報装置には、別売の音声ロムパックが必要です。
音声ロムパックは本紙に必要事項を記入のうえ、発注ください。
ご記入内容に基づいて音声録音後、お届けします。

火災通報装置用音声ロムパック

通報内容登録用紙

■火災通報装置のご使用に際しては、消防署長に届出が必要です。通報内容は設置場所ごとに異なりますので通報内容を所轄消防署と打ち合わせのうえ、消防署指定の届出書にて届出をしてください。
■届出した通報内容につきましては、当社にて録音させていただきますので、録音内容を下記にご記入のうえ、ご返送ください。
■通報内容は、固定フレーズと不定フレーズでできています。固定フレーズは、すでに録音済です。
不定フレーズは、設置先ごとの内容を当社にて録音させていただきます。
音声録音に約2週間必要ですので、お早めにご手配ください。

注 不定フレーズは8秒以内または、16秒以内になるようにフレーズ内容を作成してください。

■本体品番を確認してください。確認後、該当品番の□内に✓印を記入してください。
※本体品番により、適合する音声ロムパック品番が異なります。

本体品番	□ BGF1197	□ BGF1196	□ BGF11951 □ BGF1195 □ BGF11910
適合音声ロムパック品番	BGF93	BGF92	BGF91

本体設置場所	
工事店様名	
住所	〒　　TEL(　　)　　—
代理店様名	TEL(　　)　　—
パナソニック電工営業所	

音声ロムパック管理No.	※この管理No.は、お取引代理店様または、弊社営業所の記入欄です。

通報内容をご記入ください。(ふりがなも必ずご記入ください。数字にも必ずふりがなを付けてください。)

固定フレーズ	不定フレーズ(火災通報装置設置届出書の通報内容)	固定フレーズ
ピピピ　ピピピ 火事です。 火事です。 または、 ピンポン　ピンポン 自動火災報知設備 が作動しました。	(ふりがな)	逆信して ください。
	(ふりがな)	

■通報内容記入例

固定フレーズ	不定フレーズ	固定フレーズ
ピピピ　ピピピ 火事です。 火事です。 または、 ピンポン　ピンポン 自動火災報知設備 が作動しました。	(ふりがな) こちらは、かどまし　かどま　いちぜろよんはちばんち　ばなそにっくでんこう　です。	逆信して ください。
	こちらは、門真市門真1048番地パナソニック電工です。	
	(ふりがな) こーどばんごうは、ぜろぜろいちばん　です。	
	コード番号は、001番です。	

■返送先　工事店様 ➡ お取引代理店様 ➡ パナソニック電工営業所

注 返送まえに下記の内容を確認してください。確認後、□内に✓印を記入してください。
□ 消防署と事前に打ち合わせをされましたか。
□ ふりがながひらがなで記入されていますか。(番地などの数字も含みます。)
□ 誤記および記入もれはありませんか。

14.施工後の確認方法

●火災通報装置は、下記の確認をしてください。

❶火災通報ボタンの通報の動作確認 ……取扱説明書14ページ参照
❷自動火災報知設備の通報の動作確認 ……取扱説明書15ページ参照
❸通報メッセージの確認 ……取扱説明書16ページ参照
❹電池試験の方法 ……取扱説明書17ページ参照

15.故障時連絡先ラベルについて

●取扱説明書の「故障時連絡先ラベルについて」(19ページ)を参照ください。

MEMO

MEMO

MEMO

パナソニック電工株式会社 HA・セキュリティ事業部
〒514-8555 三重県津市藤方1668
© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2010
K1210-0AB